

長い間ありがとう

～赤松分校に別れ惜しむ～



▲ 創作劇「ゆずり葉の木がみてきたもの」を披露。

大山小学校赤松分校が、3月末で135年の歴史に幕を閉じました。これに先立ち3月28日(日)に、赤松分校では、学校と地域住民が企画した「閉校記念式典」と「思い出を語る会」が開かれました。

閉校式では、野上清校長が分校の子どもたちと過ごした思い出を交えて、感慨深く式辞を述べ、続いて伊澤百子教育委員長が、長い歴史を築いてきた赤松分校閉校の告辞を述べました。

次に児童代表の地頭厚浩君(6年)が、慣れ親しんだ学び舎に別れの言葉を送り、保護

者代表として分校PTAの秋田慎也会長が閉校の言葉を述べたあと、分校の校名板が野上校長から山根教育長へ返納されました。

分校の歴史を

朗読と歌で

引き続き行われた「思い出を語る会」では、分校の児童が赤松分校ものがたり「ゆずり葉の

木がみてきたもの」と題した創作劇を披露しました。劇は、赤松分校に古くからあるゆずり葉の木が見守り続けてきた分校の歴史を、朗読と歌で表現したものです。

劇の中では、赤松で3度も起こった大火事のときに、住民の力で分校が守られたこと、近くの山が、子どもたちの遊び場だったこと、木造校舎の思い出、全国へき地教育研究大会、カヌ

国際交流 募集対象を 町内の全中学生に拡大

大山町では国際理解教育の一環として、これまで中山中学校

が米国テメキュラ市マルガリータ・ミドル・スクールと、名和中学校が韓国釜山市大東中学校と姉妹校として、また大山中学校は韓国ヤンヤン郡の中学生とそれぞれ交互に訪問し合いながら交流してきました。

平成22年度は、各中学校が続けている交流事業を各校区から全町に広げ、より充実させるため、国際交流事業の見直しを行

いました。そこで今後は次のように事業

を整理、拡大することで、子どもたちの人材育成を図ります。

【見直しの内容】

- ・米国テメキュラ市と韓国ヤンヤン郡への中学生の派遣は、全中学校から募集します。
- ・韓国釜山市への中学生の派遣は中止し、名和中学校と大東中学校との姉妹校交流は続けます。

ーやスキーのクラブ活動など、さまざまな出来事が伝えられました。その後、閉校式典実行委員長の地頭裕文さんのあいさつをはじめ、恩師や地域住民の思い出が、懐かしい写真のスライドとともに次々に披露され、200人の参加者が歴史ある赤松分校に別れを告げました。



▶ テメキュラ市のホストファミリーとともに